第15回錯視・錯聴コンテスト応募作品

氏　名：國武実里（くにたけ　みさと）

所　属：愛知淑徳大学大学院心理医療科学専攻視覚科学博士後期課程

　　　　平成医療短期大学リハビリテーション学科視機能療法専攻助教

連絡先：國武実里（m.kunitake (at markに置き換えてください) heisei-iryou.ac.jp）

氏　名：髙橋伸子（たかはし　のぶこ）

所　属：愛知淑徳大学健康医療科学部　教授

連絡先：髙橋伸子（nob (at markに置き換えてください)asu.aasa.ac.jp）

**作品タイトル**

隠れて視える主観的輪郭

**作品動画と観察上の注意**

添付のパワーポイントの動画または、動画ファイルをご覧ください。

正方形の中心を注視して頂き、円が中心によって正方形の辺が隠れた際に主観的輪郭の円が生じます。

**別ファイルの動画の名称について**



**解説**

Anderson,B.L，Tan,K，＆ Marlow, P.J(2019)が発表したIrrational contour synthesisで用いられていた主観的輪郭を検出した実験では半透明の円が上下・左右異なるタイミングで正方形を遮蔽し、主観的輪郭が生じていた。

上下・左右の円を同じタイミングで運動させた場合、どのような知覚が生じるのか気になり作成したところ、中心に主観的輪郭の円が知覚されることを発見した。この現象は静止刺激の場合は生じにくく、周辺の円を中心の正方形に運動させた場合にのみ生じる。

今回発見した現象は正方形・円と背景間のコントラストが同じであるにも関わらず、中心にある正方形と周辺にある円の線の色が同じに比べて異なる色で主観的輪郭がより顕著に表れることがわかった。考えられる理由として、①円と正方形が異なる色の場合、円と正方形として分離が生じていることにより、端点の仮現運動が生じ、主観的輪郭が生じる②正方形と円の間で側抑制が生じ、主観的輪郭が生じるといったことが挙げられるが、今後さらなる検討が必要である。

参考文献

Anderson,B.L，Tan,K，＆ Marlow, P.J(2019). Irrational contour synthesis.Vision Research, Volume158, 202-207.